

土師ダムの防災操作による治水効果(令和3年8月豪雨)

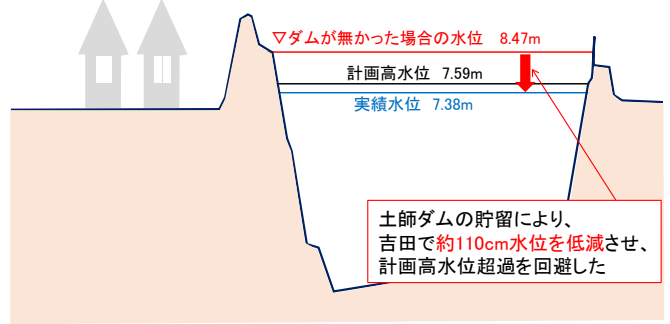
☆計画高水位の超過を回避し江の川からの氾濫被害を防止

- 前線の影響による8月12日4時から15日0時までの降雨により土師ダム上流の流域平均累加雨量422mmを記録しました。
- 土師ダムでは、ダムへの流入量が最大で毎秒約1,070m³に達し、このうち毎秒約570m³の水をダムに貯めました。
- この結果、安芸高田市吉田町付近の江の川の水位を約110cm低減させる効果があったと推定され、仮にダムが防災操作を実施していなければ、安芸高田市深瀬地区及び三次市下川立地区で越水が発生していたと推定され、越水により堤防が決壊した場合には、安芸高田市深瀬地区で約40ha・約28戸、三次市下川立地区で約86ha・約103戸の浸水被害が発生していたものと推定されます。

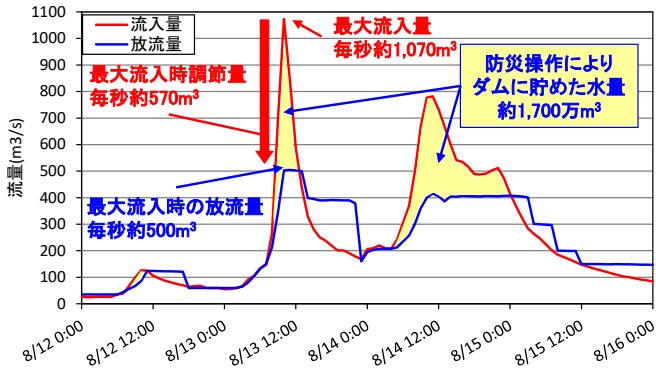
位置図



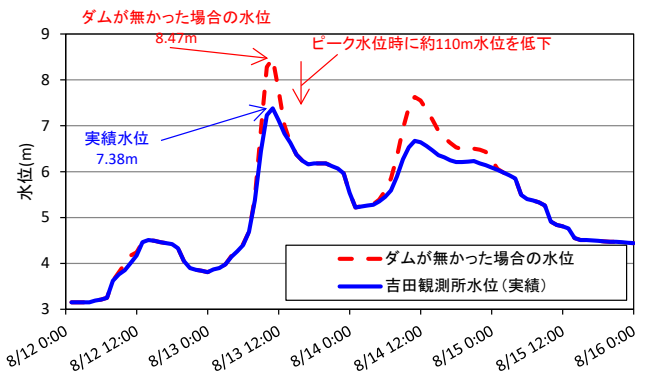
土師ダムの防災操作の効果(吉田町付近)



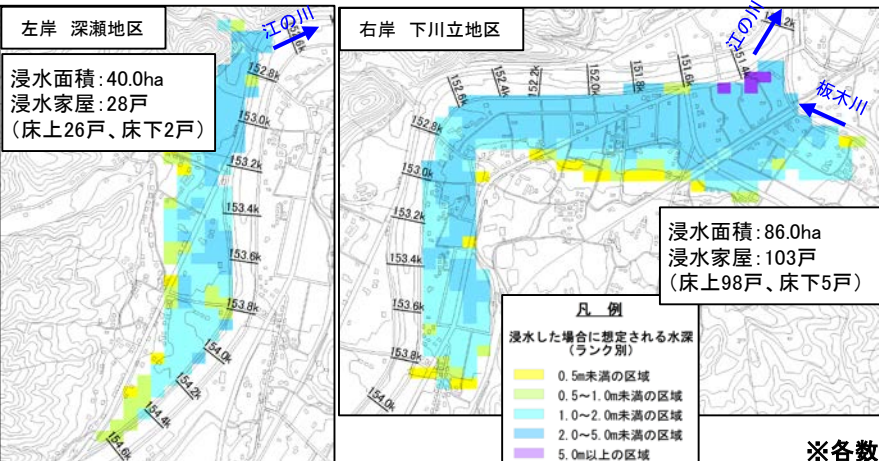
土師ダムの調節効果



吉田観測所付近



土師ダムが防災操作しなかった場合の被害シミュレーション



洪水の状況 (毘沙門橋(吉田観測所から上流400m地点)付近)



※各数値は速報値であり、今後、変わる可能性があります。